

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第4号 2006年10月



## —目次—

保健学科同窓会発足4年目を迎えて	2
同窓会の皆様へ	3
新入教員のご挨拶	4
カーティン工科大学短期留学	6
写真で見る保健学科—平成17度活動報告—	8
総会記録	10
平成17年度事業報告	11
平成17年度医学部保健学科同窓会決算書	12
平成18年度事業計画	13
平成18年度医学部保健学科同窓会予算(案)	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2006  
第4号

## 保健学科同窓会発足4年目を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会長 **川上 由行**  
(病因・病態検査学講座 病因・生体防御系 教授)

信州大学医学部保健学科は、今年2006年には完成年度を迎え、全ての学年に学生が充足しました。彼らが実のある学生生活を過ごされるよう切望しています。

さて、保健学科同窓会は、会員相互の親睦を図り、母校との連携を保ち、母校の発展に寄与することを目的に結成して4年が経過しました。在校生への教育支援や、快適な学生生活を提供するための活動を展開して来ましたが、Curtin工科大学短期留学については、本同窓会発足当初から支援を続けて来ています。今年の夏、私は同窓会長として初めてこのプログラムを実際に体験する機会に恵まれました。3週間の日程はとてもハードでしたが、実に充実していました。特に、2週目以降に立案された各専攻単位の専門の講義や実習は、カーティン工科大学の学生と一緒に受講するもので、どれもが刺激的で、且つ種々の面で触発の機会になったと多くの学生から感想が寄せられました。3週目は、それぞれの専攻単位で施設見学が行われました。その中で、ヘリコプター研究発祥の地である「Royal Perth Hospital」の「Microbiology and Infectious Diseases Department」を学生とともに丁寧に見学する機会がありました。Dr. MarshallとDr. Warrenがまさに分離に成功した「incubator」「実験台」等を直に拝見することが出来ました。研究室の入り口には、この検査室こそが研究の端緒になった旨が記された金属製のパネルが掲げられていました。とにかく、昨年2005年、同時に2名のノーベル賞学者を輩出した「誇らしさ」が、説明して下さった研究員からも伝わって来ました。

学生たちは、母国語でない言語による専門科目の

受講、カーティン工科大学生との交流、そしてホームステイ先のファミリーとの交流、また講義がない土日に企画して出掛けた近郊への小旅行、等々。わずか3週間のパース滞在で

したが、それぞれの学生たちにとって、毎日が貴重な体験の連続で収穫するものが多かったのでは、と感じました。それらを反影してか、最終日のGraduation Ceremonyでは、修了証書を1人ずつ受領して約1分間のスピーチを披露しましたが、なかなか味のある内容が多く感心しました。

最後に、この素晴らしいプログラムを継続発展させていく為の試行錯誤は今後も続くでしょうが、建設的な意見交換の中で保健学科同窓会としての支援のあり方についても建設的なご意見をお寄せ下さい。

さて、愈々来春には、第一期生が初めて保健学科から巣立ちます。医療機関で新たな一步を踏み出す学生さん、また更に大学院への進学を視野に入れている学生さん、それぞれでしょうが、卒業生の活躍こそが本学保健学科の名を天下に誇示するものであることを胸に、大きく羽ばたいて行って欲しいと念じております。



## 同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科長 **市川 元基**  
(看護学専攻 小児・母性看護学講座 教授)

平成18年4月から医学部保健学科に第1期生が第4年次生になり、来年3月には第1回の卒業生が誕生することになります。第4年次生の学生さんたちは実習に、講義に、卒業研究に、と忙しい日々を過ごしながら、国家試験の準備をされていることと思います。

さて、医学系研究科保健学専攻の大学院修士課程の設置のための準備が忙しくなっていました。本年8月には第1回目の大学院設置審査委員会による審査が行われ、その結果を受けて、現在書類の修正を行っているところです。順調にいけば12月に大学院設置の許可が下り、来年1月末か2月に大学院の入学試験が行われ、来年度に第1期生の大学院生をお迎えする予定です。この大学院は看護学分野、検査技術科学分野、理学・作業療法学分野の3つの分野から成り、卒業すれば看護学分野では修士(看護学)、検査技術科学分野、理学・作業療法学分野では修士(保健学)が授与されます。大学を卒業されてそのまま入学するコースも、卒業していったん就職し、臨床の現場で疑問点を持った方が、その問題を研究する社会人のためのコースも用意する予定ですので、同窓会の皆様におかれても、興味のある方は是非お話を聞きにきていただければ幸いです。

保健学科発足時から同窓会のご後援で保健学科が主催して行ってきた市民公開講座・シンポジウムは平成17年度も2回開催されました。平成17年10月22日に「わたしたちの望む最期を支える」という題で4名のシンポジストの方をお迎えしてシンポジウムを開催しました。松本共立病院の太田智奈美氏が「一般病棟における最期を支える」、愛和病院の石黒理加氏が「ホスピス・緩和ケアにおける最期を支え

る」、アザレアン真田の宮島渡氏が「特別養護老人ホームにおける最期を支える」、諏訪赤十字病院ホスピスレイナーの橋爪睦氏が「在宅における最期を支える」という演題でそれ



ぞれ意見を述べられ、活発な討議が行われました。平成17年11月26日には「ハンセン病の過去・現在・未来」という題で3名のシンポジストの方をお迎えしてシンポジウムを開きました。作家であり自ら患者でもあった伊波敏男氏が「なぜ医療は病人を見捨てたのか～回復者の立場から～」、山梨大学大学院臨床倫理学講座の吉澤千登勢氏が「ハンセン病の歴史が看護教育に問いかけるもの～看護職が果たすべき倫理的責任と生命倫理～」、新潟大学医学部保健学科の宮坂道夫氏が「重監房へ～無知から始まる旅～」という演題でそれぞれ発表され、討論が行われました。どちらのシンポジウムも保健学科の学生さんたちからの質問もあり、非常に有意義なものであったと確信しています。今後も同窓会の方々からのご支援そしてご参加をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

## 新入教員のご挨拶

### 自己紹介

金子 昌子

(保健学科看護学専攻 成人看護学 助教授)

平成18年4月から信州大学医学部保健学科看護学専攻成人看護学助教授として着任致しました金子昌子(かねこしょうこ)です。生まれは鹿島灘に面する茨城県鉦田市です。茨城というと水戸黄門や納豆がまず思い出されますが、鉦田市はメロンとサツマイモの産地で太平洋に面する気候の温暖な土地です。ですから“信州の冬は寒いよ〜”と言う言葉を耳にするたび、経験したこともないであろう寒さにおびえています。



看護学校を卒業してからは三次救命救急医療センター、大学病院での臨床看護師を経験し、昭和61年から看護基礎教育に携わり、短期大学・大学・大学院教育にかかわってきました。短期大学で最初に受け持った学生達はすでに師長に就いて活躍している姿に年月の流れの速さを実感すると同時に、その姿から多くのことを学ばせていただくことに感謝の日々です。これからも多くの学生や臨床看護師とのかかわりを通して、自己成長を図っていきたくと思っています。

現在看護系大学は150校にもおよび2020年には200校に達すると言われていています。保健学科も平成15年に4年制大学となり新たな歴史が刻まれつつありますが、それまでの長い歴史を土台として信州大学医学部保健学科の「フィールドでの実践を重視した教育を基本とする」という教育理念を大切にしながら基礎教育に関して行きたいと思っています。

どうぞよろしくお願いたします。

### 信州での新しいスタート

芳賀 亜紀子

(保健学科看護学専攻 小児・母性看護学講座 助手)

私が信州大学に着任して早いものでもう5ヶ月が経ちます。少しずつ色々なことに慣れ充実した日々を送っています。



私は松本市で生まれ育ち、県外の大学で看護学を学び、現在の信州大学保健学科の前身である信州大学医療技術短期大学部の専攻科助産学特別専攻において助産学を学び、その後東京の病院で助産師として臨床経験を積んでまいりました。学生から社会人となり、夢であった助産師として働くことに胸をふくらませていた日がなつかしく思えます。

そのときは、信州を離れることに特に思うところはなく、東京で生活することに期待ばかりを抱いていたと思います。

助産師として周産期医療の現場で働くにしたがって、多くの問題や場面に直面し、命というものを改めて考え、その尊さ・素晴らしさを強く感じました。また、責任の重い職種だけにつらいこともありました。その反面、喜びも多くありました。偶然も、必然もありますが、めぐり合わせで、たくさんの家族に出会い、かけがいのない時間を過ごし、私自身も大きく成長できたと思っています。とても意味のある大切な時間でした。

東京での生活に田舎育ちの私は目を輝かせて過ごしましたが、その間、時々帰省する松本に、やっぱり山のない暮らしは考えられない、と思い生活するならここ、長く住むならここ、と考え結婚・出産を機に松本に戻ってきました。北アルプスに囲まれながらの生活は幼いころは当然でしたが、今はその環境をとってもぜいたくに思います。夫と息子の家族3人で、自然と戯れる時間に小さな幸せを感じながら過



ごしているところです。冬の厳しい寒さに参ってしまふこともあります、澄みきったその冷たい空気が好きでもあるのです。

今年から自分の母校でもある信州大学で保健学科の教員として働くことになりました。少子高齢化が進み、大学、そして看護職に求められるものもますます大きくなっています。少しでもそれに応えられるよう努力しながら、これからも一つ一つの出会いや出来事を大切にしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

## 助手に着任して

松澤 有夏

(保健学科看護学専攻 成人・老年看護学講座 助手)

この4月から、看護学専攻、成人・老年看護学講座の助手に着任しました、松澤有夏です。高校まで松本で過ごし、長野県から出てみたいと、山梨の大学に進学しま



した。大学ではどういう風の吹きまわしか、山岳部に入りました。県境の山に登っては、ふもとの温泉に入ってくるという、休日を送っていました。夏には、北アルプスに何日も泊り込みで入り、地元はいいところだったのだと、実感しました。

そして大学卒業後は、山梨の夏が耐え難いこともあり、信州大学の附属病院に就職しました。病院では消化器外科病棟に配属になり、日々、忙しい業務に追われていました。業務をこなしつつも、いつも『次の休みにはどこへ行こうか』ということばかり考えていました。学生時代には、旅の楽しさも覚えていました。知らない土地へ行き、見たことのない美しい景色を見ると、自分はとても小さく、ささいなことで悩んでいても、そんなことは石ころみたいなも

のなのだと、思いました。そしてその土地ならではの、美味しいものを食べ、至福のひと時を感じていました。しかし楽しい旅である時ほど、なぜか、帰ってくる度に、日本は松本は素敵な所だと、感じていました。単に地元であるからなのか、別になにかあるのか、いまだにわかりませんが、この地で働いていられることにうれしく思います。

この夏、同窓会からの多大なご支援をうけているカーティン工科大学短期留学プログラムに同行させていただきました。オーストラリアのパスは、素晴らしいところで、研修に参加した学生ものびのびと、過ごすことができたように思います。私の在籍した大学には、このようなプログラムはなかったため、信大の学生をうらやましく感じました。学生時代に海外で、語学&他国の講義や医療施設に触れられたことが、良い刺激となり、今後の展望を大きく広げてほしいと思います。

私自身も勉強中の身であり、至らない点が多いと思いますが、精一杯努力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

# カーティン工科大学短期留学



## Curtin プログラムに参加して

作業療法学専攻 河埜 康二郎

私は、今回のCurtin工科大学短期留学プログラムに参加させていただいて、今まで無かった経験をすることができた。このプログラムの内容は英会話、ホームステイから各専門分野の学習に至るまですべてが新鮮で、様々な面での経験をつむことが出来た。

私がこのプログラムに参加した理由は、かっこよく言うと、自分探しの旅がしてみたかったからである。自分の英会話能力、積極的な行動・発言能力を理解したうえで、その能力をもっと養っていきたいとも考えていた。

はじめは、初めての土地での生活に加え、英会話が自分にとってとてもストレスfulなものであった。特にホームシックにかかったわけでもないが、ホームステイ先に帰るとすぐに寝てしまう生活が続いた。しかし、ホストファミリーや現地のスチューデント、先生が優しく接してくれたおかげで、とても楽しく時間を過ごすことができた。

最後の2週間は時間が過ぎるのが早く感じた。現地の作業療法の授業と施設へ見学など、より専門的なことを体験できたからであるからかもしれない。とても勉強になった。

このプログラムの体験を通して、自分のやりたかったこと以上の経験が出来た。このプログラムに関わってくださったすべての人に感謝したい。



## 『カーティン工科大学夏期単位認定プログラム』に参加して 検査技術科学専攻 1年 林 剛志

今回、一年ということもあって授業の内容にはついていけませんでした。分からない語句が出てきたら先生や先輩の方々が教えてくれたので退屈にはならず、また何の分野の授業をしているのかは理解できて、まだ専門分野を習っていない私でも楽しく受講でき、いい経験が出来たと思っています。施設見学も一週間で様々な所を回り、小さなプライベートラボから大きな病院まで設備や技術においても様々な所を見て回れたので、日本では出来ないいい経験ができました。また、実際に実習に参加させてもらったり、細胞を顕微鏡で見せてもらったりと、まだ学校でやったことのない事をするのはすごく楽しかったです。今回授業で貰った資料はまだ私にはさっぱりと理解出来ない内容ですが、後に絶対に出てくる内容なので、たまに読み返したりしてもしも信州大学の授業で出てきた時にすぐに思い出せるようにしたいと思っています。一年生にはまだ早く、内容を理解する事は出来ませんが、検査技術科学により関心を抱き、今後の学習のいい刺激になりました。

## 短期留学プログラムに参加して 看護学専攻 3年 由井 千鶴

Curtin工科大学短期留学プログラムを通じて、沢山のことを学ぶことができました。その中で、最も印象に残ったことを2つ述べる。

まず一つ目は、英語でいろんな人と交流できたことである。私のホームステイ先には、インドネシアとタイからの留学生がいたのだが、最も印象に残ったのは、英語を通して彼らと交流することができたことである。私の英語はつたないものであったけれども、彼らと一緒に笑ったり、楽しく過ごせたことがとても嬉しかった。英語を通して、いろんな人と関わりを持てたということは、私にとって、最もかけがえのない経験となった。

二つ目は、海外の医療制度やシステムを学ぶことができたことである。実際の医療現場を見ながら、オーストラリアと日本の医療を比べたり、違いを詳しく知ることができた。また現地で働いている日本人看護師さんらの話を伺って見て、日本の看護の良さに気付かされたりもした。海外の医療制度を知ること、改めて日本の医療を考える良い機会になったと思う。

英語の中で過ごした3週間は、当初私が想像していた以上に、楽しく充実したものとなった。今回この短期留学プログラムに参加したことで、大変貴重な体験をすることができた。





## 写真で見る保健学科—平成17年度活動報告—



■平成17年度卒業式(理学療法学科・作業療法学科・検査技術科学)



■平成17年度卒業式(看護学)



■保健学科同窓会総会



■特別講演講師(尾沢要氏)



■公開シンポジウム「わたしたちの望む最期を支える」



■公開シンポジウム「わたしたちの望む最期を支える」



■公開シンポジウム「ハンセン病の過去・現在・未来」(伊波敏男氏)



■公開シンポジウム「ハンセン病の過去・現在・未来」(吉澤千登勢氏)



## 平成17年度の主な活動



■公開シンポジウム「ハンセン病の過去・現在・未来」(宮坂道夫氏)

### ■平成17年度卒業式

平成18年3月21日 19名が卒業

### ■保健学科同窓会総会

平成17年6月29日  
信州大学旭会館3階大会議室

### ■特別講座

平成18年6月21日

### ■公開シンポジウム「わたしたちの望む最期を支える」

平成17年10月22日(土) 13:30~16:30  
信州大学旭総合研究棟9階講義室

### ■公開シンポジウム「ハンセン病の過去・現在・未来」

平成17年11月26日(土) 13:00~16:30  
信州大学経済学部第1講義室

## COLUMN [コラム]

### ●在校生の教育支援の一環として、談話室の改装を行いました。



談話室before



談話室after

### ●北校舎西側階段通路整備を行いました。



階段改修後



プレート

寄贈 医学部保健学科同窓会  
北校舎西側階段・通路新設工事  
平成17年9月

# 総会記録

## 平成18年度信州大学医学部保健学科同窓会総会記録

日 時 平成18年6月21日(水) 15時30分～16時30分

場 所 旭会館3階大会議室

出席者 川上由行同窓会長・山崎章恵・柳澤節子・三好圭・小林利江・芳賀亜起子・上條陽子・千島亮・柳澤理子・相良淳二・小林隆夫・小穴こず枝・富岡詔子・木村貞治・寺沢文子・佐藤陽子・細田かず子・大平雅美・日高宏哉・北澤千利・阪口しげ子・鈴木泰子・橋本みづほ・亀谷清和・横田素美・松沢有夏・上條由夏・脇山直樹・赤沼宏美・山鹿隆義・西川良太・武市尚也・河村優記・北川孝・藤井一弥・山田愛子・小木曾菜穂・樋口純子・斉藤沙織・種廣直子・寺政和美・高橋朋江・竹内雅彦・藤中優子・村山忠勇

1. 保健学科同窓会長挨拶

2. 議長選出

ヒト環境科学研究支援センター機器分析部門 亀谷清和氏を選出した。

3. 平成17年度事業報告及び決算報告について

資料1-1により山崎章恵幹事から事業報告があり、続いて資料1-2により柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。

4. 平成17年度会計監査報告

小林利江監事から平成18年6月7日(水)に山本良彦監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨報告があった。

5. 平成18年度事業計画及び予算(案)について

資料3-1により山崎章恵幹事から事業計画の説明があり、続いて資料3-2により柳澤節子幹事から予算(案)の説明があり承認された。

6. 信州大学医学部保健学科同窓会の個人情報保護方針について

資料4により山崎章恵幹事から説明があり承認された。

7. 信州大学医学部保健学科同窓会会則新旧改定(案)

資料5により山崎章恵幹事から説明があり承認された。

8. 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則新旧改定(案)

資料6により山崎章恵幹事から説明があり承認された。

9. 信州大学同窓会連合会について

川上同窓会長から寄附支出について昨年は半年分の支出であったが今年度は1年度分の支出であることの説明があり承認された。

10. 財団法人信州医学振興会について

川上同窓会長から今年度も寄附支出の説明があり承認された。

11. 同窓会総会時の特別講演について

川上同窓会長から総会終了後尾沢 洋さんの特別講演がある旨アナウンスがあった。

12. その他

なし。

# 平成17年度事業報告

1. 同窓会総会の開催  
平成17年6月29日(水) 15:30~16:30 信州大学旭会館3階大会議室
2. 役員会の開催  
平成18年6月14日(水) 18:30~21:00 信州大学医学部保健学科第一会議室
3. 幹事会の開催  
第1回 平成17年8月10日(水)：学生課外活動支援について  
第2回 平成17年10月13日(木)：学生課外活動支援について、会報について  
第3回 平成17年12月9日(金)：プライバシーポリシー、次年度公開シンポジウムについて  
第4回 平成18年2月14日(火)：プライバシーポリシーについて  
第5回 平成18年4月19日(水)：保健学科同窓会規約改正について  
第6回 平成18年6月1日(木)：役員会・総会に向けての準備
4. 同窓会ホームページの運営
5. 同窓会だよりの発行
6. 在校生の教育支援
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 実習指導者連絡協議会開催
  - 3) 学術国際交流推進(オーストラリア、カーティン工科大学短期留学プログラム)
  - 4) 卒業・修了祝賀会
  - 5) 学生課外活動支援(松本ぼんぼん、球技大会、銀嶺祭)
  - 6) 保健学科キャンパス環境整備(北校舎西側階段通路整備)
  - 7) 特別講演の開催(市民公開講座)
    - ①「予防医療と健康スポーツ：イキイキ輝く熟年が地域の未来を変える！」  
信州大学大学院医学研究科 加齢適応医科学系専攻 個体機能学 能勢 博 教授  
平成17年6月29日(水) 16:30~17:30 参加人数：60名
    - ②「わたしたちの望む最期を支える」  
日時：平成17年10月22日(土) 13:30~16:30 場所：信州大学旭総合研究棟9階講義室  
講師：太田智奈美氏、橋爪睦氏、宮島渡氏、石黒理加氏 司会：上原ます子氏  
参加人数：一般市民、学生含めて60名
    - ③「ハンセン病の過去・現在・未来」  
日時：平成17年11月26日(土) 13:00~16:30 場所：信州大学経済学部第1講義室  
講師：武藤香織氏、宮坂道夫氏、吉澤千登勢氏、伊波敏夫氏 コメントータ：金早雪  
司会：玉井真理子 参加人数：一般市民、学生含めて63名
7. 保健学科の運営支援について
  - 1) 入試広報活動支援
  - 2) 大学院設置支援
  - 3) 記念事業開催準備(積み立て)
8. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻：アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻：臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻：州嶺会
9. その他
  - 1) 信州大学同窓会連合会との連携
  - 2) 信州医学振興会支援



# 平成17年度医学部保健学科同窓会決算書

## 収入

平成18年4月30日現在

事 項	17年度予算額	17年度決算額	増減(－は減)
前年度繰越	870,912	870,912	0
会 費(在校生)	120,000	120,000	0
会 費(新入生)	8,310,000	8,310,000	0
会 費(専攻科入学者)	151,000	151,000	0
利 息	0	74	74
<b>合 計</b>	<b>9,451,912</b>	<b>9,451,986</b>	<b>74</b>

## 支出

平成18年4月30日現在

事 項	17年度予算額	17年度決算額	増減(－は減)
<b>1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助</b>			
・委任経理金(図書購入費)	500,000	500,000	0
・委任経理金(学術国際交流推進経費)	300,000	300,000	0
・委任経理金(特別講演会経費)	500,000	500,000	0
・委任経理金(大学院立上げ活動経費)	300,000	300,000	0
・実習指導者連絡協議会経費	300,000	108,071	-191,929
・卒業・修了祝賀会経費	100,000	100,000	0
・入試広報活動経費	100,000	90,075	-9,925
・キャンパス見学会経費	60,000	57,120	-2,880
・学生課外活動経費	200,000	60,000	-140,000
・環境整備	1,500,000	1,254,500	-245,500
・記念事業等特別積立金	800,000	800,000	0
小 計	4,660,000	4,069,766	-590,234
<b>2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助</b>			
・看護学関係同窓会	1,340,000	1,340,000	0
・検査技術科学関係同窓会	760,000	760,000	0
・理学療法学関係同窓会	400,000	400,000	0
・作業療法学関係同窓会	340,000	340,000	0
・上記振込み手数料	1,260	1,260	0
小 計	2,841,260	2,841,260	0
<b>3. 保健学科同窓会運営費</b>			
・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	200,000	19,200	-180,800
・同窓会だより	400,000	358,050	-41,950
・同窓会総会等経費	400,000	246,250	-153,750
・信州大学同窓会連合会会費	70,000	35,315	-34,685
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
・事務処理等人件費	560,000	584,000	24,000
・通信費	10,000	10,480	480
・消耗品	35,000	50,118	15,118
・電気・電話使用料	33,000	31,681	-1,319
小 計	1,758,000	1,385,094	-372,906
4. 予備費	192,652	6,817	-185,835
5. 利 息(8月・2月)	0	74	74
<b>合 計</b>	<b>9,451,912</b>	<b>8,302,937</b>	<b>-1,148,901</b>

収 入	9,451,986
支 出	8,302,937
差引残額(翌年度繰越額)	1,149,049



# 平成18年度事業計画

---

1. 同窓会総会の開催  
平成18年6月21日(水) 15:30~16:30 信州大学旭会館3階大会議室
2. 役員会の開催  
年1回5~6月
3. 幹事会の開催  
年4回
4. 同窓会ホームページの運営
5. 同窓会だよりの発行
6. 在校生の教育支援
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 実習指導者連絡協議会開催
  - 3) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン工科大学短期留学プログラム)
  - 4) 卒業祝賀会・記念品贈呈
  - 5) 就職支援
  - 6) 学生課外活動支援
  - 7) 保健学科キャンパス環境整備
  - 8) 特別講演の開催(市民公開講座)
    - ①「山への思い —あこがれから行動へ—」  
尾沢 洋氏(登山家, エッセイスト) 平成18年6月21日(水) 16:30~17:30
    - 他2回
7. 保健学科の運営支援について
  - 1) 入試広報活動支援
  - 2) 大学院設置支援
  - 3) 記念事業開催準備(積み立て)
8. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
9. その他
  - 1) 信州大学同窓会連合会との連携
  - 2) 信州医学振興会支援

# 平成18年度医学部保健学科同窓会予算（案）

## 収入

平成18年6月7日現在

事 項	17年度決算額	18年度予算額	増減（－は減）
前年度繰越	870,912	1,149,049	278,137
会費(在校生)	120,000	320,000	200,000
会費(新入生)	8,310,000	7,720,000	-590,000
会費(専攻科入学者)	151,000	0	-151,000
利息	74	0	-74
<b>合 計</b>	<b>9,451,986</b>	<b>9,189,049</b>	<b>-262,937</b>

## 支出

平成18年4月30日現在

事 項	17年度決算額	18年度予算額	増減（－は減）
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・委任経理金(図書購入費)	500,000	500,000	0
・委任経理金(学術国際交流推進経費)	300,000	700,000	400,000
・委任経理金(特別講演会経費)	500,000	350,000	-150,000
・委任経理金(大学院立上げ活動経費)	300,000	300,000	0
・実習指導者連絡協議会経費	108,071	150,000	41,929
・卒業祝賀会経費	100,000	300,000	200,000
・卒業生記念品代	0	160,000	160,000
・就職支援経費	0	300,000	300,000
・入試広報活動経費	147,195	160,000	12,805
・学生課外活動経費	60,000	100,000	40,000
・環境整備	1,254,500	1,000,000	-254,500
・記念事業等特別積立金	800,000	800,000	0
小 計	4,069,766	4,820,000	750,234
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・看護学関係同窓会	1,340,000	1,340,000	0
・検査技術科学関係同窓会	760,000	740,000	-20,000
・理学療法科学関係同窓会	400,000	280,000	-120,000
・作業療法科学関係同窓会	340,000	380,000	40,000
・上記振込み手数料	1,260	1,260	0
小 計	2,841,260	2,741,260	-100,000
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	19,200	20,000	800
・同窓会だより	358,050	400,000	41,950
・同窓会総会等経費	246,250	300,000	53,750
・信州大学同窓会連合会会費	35,315	70,000	34,685
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
・事務処理等人件費	584,000	584,000	0
・通信費	10,480	15,000	4,520
・消耗品	50,118	35,000	-15,118
・電気・電話使用料	31,681	33,000	1,319
小 計	1,385,094	1,507,000	121,906
4. 予備費	6,817	120,789	113,972
5. 利 息(8月・2月)	74	0	-74
<b>合 計</b>	<b>8,302,937</b>	<b>9,189,049</b>	<b>886,038</b>



# 同窓会役員

会 長: 川上由行(医学部保健学科)

副会長: 山崎一(南箕輪村役場)

理 事: 看護学専攻8名

浅井美登理(看護学専攻学生)

中瀬裕裕(看護学専攻学生)

松本あつ子(医学部附属病院)

三井貞代(医学部附属病院)

伊藤喜世子(医学部附属病院)

細田かず子(医学部附属病院)

丸山順子(松本短期大学)

上條陽子(医学部保健学科)

検査技術科学専攻4名

石毛崇之(検査技術科学専攻学生)

石田章子(波田総合病院)

亀谷清和(信州大学総研)

寺沢文子(医学部保健学科)

理学療法学専攻2名

齋藤幹剛(理学療法学専攻学生)

森本正道(竹重病院)

作業療法学専攻2名

山鹿隆義(作業療法学専攻学生)

青木朗(医学部保健学科)

幹 事: 奥村伸生(医学部保健学科)

山崎章恵(医学部保健学科)

柳澤節子(医学部保健学科)

三好圭(医学部保健学科)

監 事: 山本良彦(長野医療専門学校)

小林利江(医学部附属病院)

## 信州大学医学部保健学科同窓会会則

### 信州大学医学部保健学科同窓会会則

#### 第1章 総 則

第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という)と称する。

第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
- 二 母校の発展に関する事項
- 三 その他必要と認められる事項

第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。

- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

#### 第2章 会 員

第6条 本会の会員は次のとおりとする。

##### 一 正会員

イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生

ロ 信州大学医療技術短期大学部の在學生及び卒業生

ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という)の在學生及び卒業生

ニ 信州大学医学部保健学科大学院修士課程(以下「本学科大学院修士課程」という)の在學生および修了生

##### 二 特別会員

イ 本学科教員

ロ 本学科元教員

ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。

第9条 正会員は、会費として6万円を本学科入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

第10条 本会に次の役員を置く。

一 会 長 1名

二 副会長 1名

三 理 事 17名 (看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;大学院生1名)

四 幹 事 若干名

五 監 事 2名

第11条 役員は、次の職務を行なう。

一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。

四 幹事は、本会の実務に当たる。

五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。

第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。

一 会長は、総会において正会員の中から選出する。

二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。

三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。

四 幹事は、会長が委嘱する。

五 監事は、総会において正会員の中から選出する。

- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。  
 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。  
 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

#### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推薦する。  
 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。  
 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

#### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し次の事項を審議決定する。  
 一 事業及び決算報告  
 二 事業計画及び予算  
 三 会則の制定及び改廃  
 四 役員の選出  
 五 顧問の推挙  
 六 その他の必要事項  
 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。  
 第17条 会長は必要と認めたととき、臨時総会を開催することができる。  
 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。  
 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。  
 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。  
 第22条 総会は、議事録を作成しこれを保存する。  
 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。  
 第24条 理事会は、会長が必要と認めたととき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。  
 第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。  
 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。  
 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

#### 第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。  
 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。  
 この会則は、平成16年4月1日から施行する。  
 この会則は、平成19年4月1日から施行する。

## 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生および修士大学院生については編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 3万円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 1万円
 また、3年次編入生および修士大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。  
 ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 1万5千円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 5千円
 保健学科同窓会会員が修士課程に入学した場合は、(1)在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

#### 附則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。  
 この細則は、平成16年4月1日から施行する。  
 この細則は、平成19年4月1日から施行する。

### 編集後記

同窓会だよりの編集作業も2年目になり、前号よりも内容の充実を図るべく、今号は保健学科同窓会の活動報告を写真で掲載しました。

卒業式や公開シンポジウムなど多くの事業を毎年行っておりますが、特に談話室のテーブルの入れ替えや北校舎西側の改修工事は学生からの要望で行われた事業です。これか

らも、学生からの声をできるだけ取り入れて、よりよい環境作りに貢献できたら…と思っています。

また、同窓会のホームページ(<http://alps2.shinshu-u.ac.jp/subject/reunion.html>)も是非一度ご覧ください。

保健学科理学療法専攻 三好 圭